

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

表層で30℃以上となっている地点があり、全地点において28℃以上となっています。

検鏡の結果、魚類に対して有害なコクロディニウム・ポリクリコイデスが最大4細胞/mL、シャットネラ属が最大1細胞/mL、カレニア・ミキモトイが最大1細胞/mL確認されました。また、下痢性貝毒の原因種とされるディノフィシス属が最大1細胞/mL確認されました。

柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水では、魚類に対して有害なコクロディニウム・ポリクリコイデスが大島中央で0.02細胞/mL、小筑紫中央で0.02細胞/mL、シャットネラ属が藻津で0.01細胞/mL、大島中央で0.02細胞/mL、小筑紫中央で0.03細胞/mL、ヒロウラで0.03細胞/mL、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が藻津で0.06細胞/mL、大島中央で0.02細胞/mL、栄喜奥で0.07細胞/mL、麻痺性貝毒の原因種とされるギムノディニウム・カテナータムがヒロウラで0.04細胞/mL、下痢性貝毒の原因種とされるディノフィシス属が藻津で0.04細胞/mL、大島中央で0.01細胞/mL、栄喜奥で0.04細胞/mL、ヒロウラで0.05細胞/mL確認されました。

アレキサンドリウム属、ギムノディニウム・カテナータムおよびディノフィシス属は、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、養殖魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	ディノフィシス 属
	(m)	(℃)		(mg/L)				
A 藻津 (-/35.3m) 【09:07】	0	29.6	33.8	7.1	0	0	0	0
	5	29.2	34.0	6.9	0	0	0	0
	★ 8	28.9	34.0	6.5	0	0	0	0
	10	28.8	34.0	6.1	0	0	0	0
	15	28.7	34.0	5.7	-	-	-	-
	20	28.5	34.0	5.5	-	-	-	-
B 大島中央 (-/31.8m) 【09:15】	0	29.3	33.9	7.1	0	0	0	0
	★ 5	29.2	34.0	7.0	0	1	0	0
	10	29.0	34.0	6.2	0	0	2	0
	15	28.8	34.1	6.0	-	-	-	-
	20	28.7	34.1	5.9	-	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/48.6m) 【09:22】	★ 0	29.3	33.9	7.0	0	0	0	0
	5	29.1	34.1	6.9	0	0	0	0
	10	29.0	34.1	6.7	0	0	0	0
	15	28.9	34.1	6.7	-	-	-	-
	20	28.9	34.1	6.6	-	-	-	-
D 栄喜奥 (-/11m) 【09:40】	0	29.4	34.0	6.2	0	1	0	0
	5	29.0	34.1	6.5	0	0	4	0
	★ 10	28.9	34.1	6.3	0	0	0	0
E ヒロウラ (-/24.1m) 【10:00】	0	29.1	34.0	6.3	0	0	0	1
	5	29.1	34.0	6.4	0	0	0	0
	10	28.9	34.0	6.2	0	0	0	0
	15	28.8	34.1	5.8	-	-	-	-
	★ 19	28.8	34.1	5.8	0	1	0	0
	20	28.7	34.1	5.9	-	-	-	-

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	クロロディニウム・ ポリクリコイデス	ディノフィシス 属
F 青瀬山 (-/15.4m) 【09:48】	0	30.0	33.3	5.8	0	0	0	0
	5	29.1	34.1	6.7	1	0	0	0
	★ 10	28.9	34.1	6.5	0	0	0	0
	15	28.7	34.1	5.7	-	-	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：<https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。

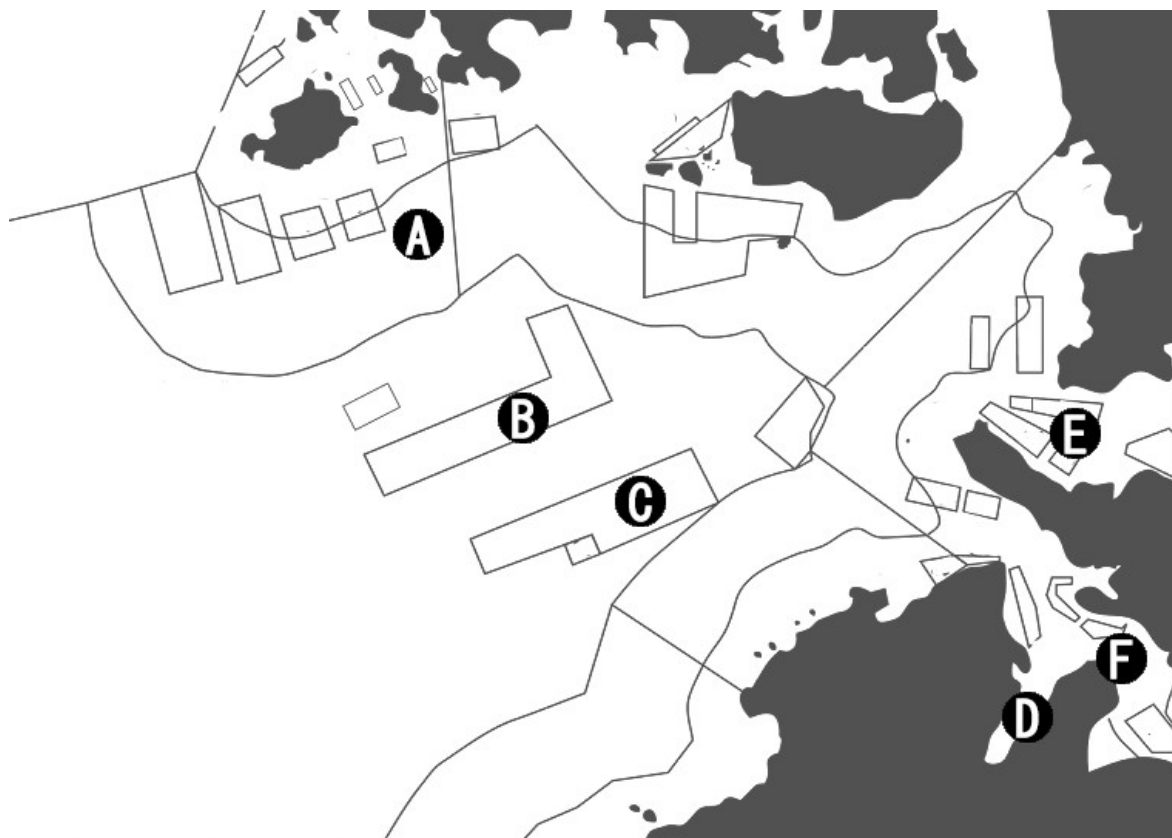
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				宿毛湾
カレニア・ミキモトイ	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	—
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—
クロロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	5～6月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 藻津

B: 大島中央

C: 小筑紫中央

D: 栄喜奥

E: ヒロウラ

F: 青瀬山

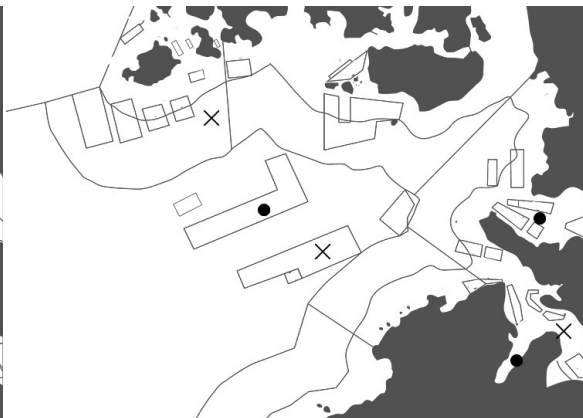
カレニア・ミキモトイ

最大細胞密度



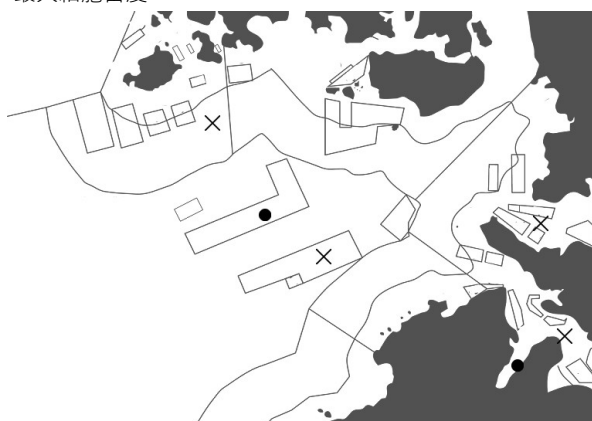
シャットネラ属

最大細胞密度



コクロディニウム・ポリクリコイデス

最大細胞密度



ディノフィシス属

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ

円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。

0

×

1~9

●

10

○

100

○

1,000

○

10,000

○

100,000

○

300,000

○

注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。

基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

